

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 4456
'24年6月18日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

第13回定期全国大会に向けて 組織的前進へ議論を深めよう

おはようございます。

7月5日・6日の両日、郵政産業労働者ユニオンは東京で第13回定期全国大会を開催します。

今年度一年間の活動を振り返ると共に、来年度に向けた職場や組織の課題について明らかにし全国大会での議論につなげていきたいと思えます。組合員に配布されている大会議案書から、要旨を引用する形で報告します。

物価高騰が続くもとで大企業が内部留保を積み増し続ける一方、労働者の賃金は物価高騰に追いつかず家計の厳しさが増えています。

今春闘の要求回答で会社は、一般職と地域基幹職1・2級との統合、定期昇給の廃止をはじめ扶養手当や退職手当制度など人事制度全般にわたる

見直しを検討していることを表明しました。

社員の自律的な成長・挑戦を促し人材を流動化させる新たな全般的な人事諸制度を導入というところで、給与水準をどこに合わせるかなど詳細は明らかにされていません。

郵政ユニオンは、低すぎる一般職の労働条件の改善を求めています。制度見直し、地域基幹職1・2級の処遇引き下げにつながることを許さない立場から交渉します。



全国大会の任務

- 1 非正規社員の正社員化と均等待遇を求めるとりくみ
- 2 労働契約法20条最高裁判決を活かすすべてのたたかいに勝利するとりくみ
- 3 組織強化・拡大のとりくみ
- 4 生活と労働条件改善のとりくみ
- 5 労働者の権利を守るとりくみ
- 6 改憲策動を許さず、新しい政治への転換をめざすとりくみ
- 7 脱原発・原発ゼロ、震災復興に連帯したとりくみ
- 8 郵政公共サービスの拡充をめざすとりくみ
- 9 郵政労働運動の発展をめざすとりくみ

また、現場の労働者の現状も深刻です。

ヤマトとの協業で、特にクロネコゆうパケットの業務量の増加は過大なものがあるにもかかわらず、事前に危惧した通り、物量増に見合う要員配置が十分になされていません。抜本的な要員確保に動かなければ、今後も計画の見直し等が続くことになるのは必至です。

ゆうちょ銀行では、「お客様本位のサービスの提供」を掲げながら、一方で営業目標が強化されています。営業目標に反映されないものもあり、「お客様」より「目標」本位の営業となる危険性があります。こうした状況の

中で、コンサルタントや窓口社員への重圧が強まっています。



かんぽ生命では、事業の継続のためとして営業収益の確保が営業方針に掲げられています。失った信頼を取り戻せるような真のお客様サービスやニーズに添った商品の提供であれば良いのですが、数字ありきの無理な営業や厳しい推進管理などによる窓口社員の疲弊が危惧されます。

日本郵政グループは「JPBビジョン2025」で打ち出された3万5千人社員削減計画を着実に推進してきました。

グループ全体で業務効率化と採用者数の抑制を進め、すでに社員数は3万人近く減少しています。その余波は労働強化という形で表われています。この間、郵政ユニオンの要員確保の要求に対して、会社は新卒採用・中途採用・正社員登用等を

あらゆる方策を駆使して必要な労働力の確保に努めたいと答えています。しかし要員不足は解消していません。募集を繰り返しても応募が少なく、また早期退職など定着率が悪いことが要因となっています。郵政ユニオンは、サービス残業などは、ただ働きで要員が足りない中、廃休や過大な超勤などで業務を回している実態を指摘し、要員不足解消・大幅増員を今後も求めていきます。



郵政ユニオン結成から12年が経ち、今日まで中心的な活動を担ってきた世代から、次世代にバトンをわたす時期を迎えています。新しい役員の育成を目指すとともに、これまでたたかいによって切り拓いてきた情勢と獲得した成果をさらに広げながら、全組合員の力を結集して組織的前進を勝ちとる方針を確立します。

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎の
ホームページはこちら



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。

ゆげ、均等待遇。

なげん、差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利した。